

金沢市立十一屋小学校

〔はじめに〕

本校は、金沢市の東南部寺町台に位置し、明治9年4月に在明小学校として開校した創立141年の伝統校である。昭和34年4月十一屋小学校と改称し現在に至る。全校児童数は404名、教職員は36名である。

学校の東に流れる犀川そして医王の山並みは四季折々の表情を見せ、子どもたちにとって自然を身近に感じられる環境にある。

平成26年度、ユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

「人と地域を大切にし、共につながり合おう！」 ～校区、金沢の魅力発信！！～

1 ユネスコスクールとしての取組

本校では、「人と地域を大切にし、共につながり合おう！」を学校テーマとし、学年ごとに十一屋校区や金沢にある様々な素材と関わりながら、環境・人・伝統や文化に関する学習に取り組んでいる。これらの学習を通して、金沢に学び、金沢から世界へ発信する人材や、持続可能な学校の文化として根付いていくことをめざしている。



(1) 1年生(生活科)

「金沢の伝承遊びを楽しもう」(地域教育)

金沢伝承の遊びや昔から伝わる日本の遊びを通して日本の文化の良さを感じてほしいと考え、本テーマに取り組んだ。

まず、自分たちで遊びを楽しみ、その後、地域の昔遊びの名人を招いて技やコツを教えてもらった。また、金沢の伝承遊び旗源平の遊び方も習い、一緒に遊びを楽しんだ。

遊びの体験のみで終わるのではなく、地域の方とふれあういい経験にもなった。



(2) 2年生(生活科)

「十一屋博士になろう」(地域教育)

生活科を中心に、自分たちの町を知ることで、校区に親しむと同時に、町の人と様々な関わりを持ち、自分たちの町の良さに気づかせたいと考え、本テーマを設定した。

まず、校区内のお気に入りの場所や遊んで楽しかった公園などを伝え合った。その後、各地域の写真をもとに、詳しく知っている場所やそこにいる人、ものについて絵と文で表した。新しく発見したことや気づいたことを一人ひとりカードにまとめる活動を通して、自分たちの住んでいる地域を愛する気持ちを高めることができた。週末には、地域の活動に参加したことを日記に書いたり、翌週に話したりする姿が見られるようになった。

(3) 3年生(総合的な学習の時間)

「金沢の伝統を知ろう」(地域教育)

金沢に昔から伝わるものや、茶の湯文化の息づく金沢市の和菓子作りに目をむけ、それに携わる人々や地域の様子を調べることで、自分と地域との関わりに気づかせていきたいと考え、本テーマを設定することにした。

1学期は、金沢に昔から伝わるものを調べ、伝統的な行事や物を身近に感じる事ができたように思う。また遠足のコースを金沢城公園近辺に設定して、自分たちの住む金沢の良さにも気づくことができた。2学期は、校区の歴史に目を向け、知らなかったことを知るといふ喜びに触れ、校区への新たな思

いを持つことができたと思う。3学期は校区で和菓子店を営業している方にスポットを当て、製造工程を教えていただくとともに学校にその方をお招きし、いくつもの質問を通して、和菓子の種類や和菓子づくりにかける思いを知ることができた。それをもとに和菓子について各自が調べることで、わずかではあるが郷土への親しみが増したように思う。

(4) 4年生(総合的な学習の時間)

「地域の高齢者の方と交流し、よさを学ぼう。伝えよう。」(福祉教育)

金沢市内でも特に大きな団地をかかえる十一屋校区には、高齢者、外国人、一人暮らしの人、あるいは障害を持つ方々が暮らしている。4年生という少しずつ周りのことが見られるようになってきている時期に児童たちは、色々な人がいることに気付き始めている。お互いの違いを認め合い支え合う大切さに気付き、共に生きる意味について考える機会となるよう本テーマを設定した。

授業では福祉の意味について考え、相手に対してどんなことができるのかを探求できる活動を設定した。地域の高齢者の方に対して具体的には、5月の運動会への招待状渡しに始まり、暑中見舞い、地域の高齢者の方を招いた秋の交流会も企画した。自分たちでどんなことをしたら喜んでもらえるか、楽しんでもらえるかを考え、進行することで自分たちの学年で何か企画を立案し達成する体験を積むことができた上に、自分たちも楽しいひとときを過ごすことができたと思われる。



(5) 5年生(総合的な学習の時間)

「平栗の未来を考えよう」(地域教育・環境教育)

本校区が一番遠い場所に「平栗地区」という場所がある。今は平栗地区から通う児童はいないが、昔は分校があり、分校がなくなった後も徒歩やバスで十一屋小学校まで通っていたそうだ。そんな平栗地区は、ギフチョウやカタクリといった稀少生物が有名で、金沢市自然環境保全区域に一番に指定された場所である。しかし、住民の高齢化が進み、様々な問題を抱えた地域でもある。

そこで、住民の高齢化の問題、環境問題などの視点から、地域を大切にしようとする気持ちや、問題を多面的にとらえる力、コミュニケーションを行う力を養いたいと考え、本テーマに取り組んだ。

授業では、春に現地を訪れ、ギフチョウやカタクリを探した。また、町会長さんから、昔の分校の話や平栗の自然を守り、他の地域に住む人に訪れてもらうための努力について具体的な話を聞かせていただいた。その結果、子どもたちは「平栗の未来は自然がいっぱい残っている。」「平栗はなくなってほしくない。」など平栗に住んでいる人の気持ちを大切に、学習を進めることができた。このように、現地の自然に触れたり、平栗地区の方々の温かさに触れたりしたことで、平栗地区を大切に思う児童が増えたことや、真剣に平栗の未来を考える児童が増えたことが何よりも大きな成果だと捉えている。



(6) 6年生(国語科)(国語・道徳・総合的な学習の時間)

「金沢の魅力再発見！」(地域教育)

自分たちが暮らしている金沢には、近年、多くの観光客が訪れており、金沢にはじめることができる名所が非常に多くある。しかし、そこで暮らしている私たちにとってもこれまでに気づくことができなかった金沢の魅力を再発見し、郷土愛を育める。金沢の歴史や文化について学んだ後で、秋の遠足『金沢城下町ウォーク』では、自分が深く調べたい名所を明確にした上で、取材を行った。その後、取材したことを元にソフトウェアを利用して写真を活用したり、レイアウトを工夫したりしながら、魅力あふれるパンフレットを作成することができた。完成したパンフレットは校内に掲示し、金沢の名所を魅力たっぷりに紹介することができた。

2 成果と課題

本校では校区や金沢のことを知り、その魅力を十分に理解できる学習を展開した。「金沢ふるさと学習」とも関連させながら、地域の自然や人、文化と関わりながら学習を進め、十一屋地域との交流も増やすきっかけとなった。子どもたちは、自分のクラスや学年以外の人たちともふれ合う機会を通じ、教室や学校で学びが終止するのではなく、社会と常につながりながら学びを深めることができた。来年度は、今年度の実践をベースにしながら、より十一屋地域や金沢を好きになれるように学習内容を精選し、「つながり」をさらに意識できるような工夫をしていきたい。